

The background of the entire page is a detailed architectural floor plan of a traditional Japanese townhouse (Machiya). The plan is drawn in a light blue line on a cream-colored background. It shows multiple rooms, including a large living area (Iki), a kitchen (Kuchinori), a bathroom (Ofuro), and a toilet (Toilet). There are also several circular elements, possibly representing windows or decorative features, scattered throughout the plan. The title '新町家のすすめ' is written vertically in the center of the page, with the characters '新' and '町' in a smaller font size than '家のすすめ'.

# 新町家のすすめ

## 京町家の知恵をいかした住宅を建てるためのガイドブック 〈概要版〉

京町家の知恵をいかした住宅(新町家)を建てるための考え方や、  
伝統的な京町家の知恵をいかすための工夫について  
解説したガイドブックです。

# 新町家とは？

住まいに京町家の知恵を取り入れることで、京都らしい町並みや、住みよい暮らしを実現することができるとともに、伝統技術・技能を次世代に引き継ぐことにもつながります。

「新町家」は、京町家の知恵をいかした、京都のまちに相応しい住宅であり、「生活文化の継承と発展」「趣のある町並みの形成」「伝統技術・技能の継承」を実現することを目指しています。

京都の長い歴史のなかで培われてきた京町家の知恵を受け継ぎながらも、時代の生活ニーズに合った、新しい京都の住宅です。



新たに住宅を建てる際や、既存住宅の改修を行う際には、ぜひ、京町家の考え方を取り入れてみてください。

設計する際に重視すべき項目を、以下の5つの指針として整理しています。

- 指針1 まちに暮らす / 指針2 場所になじむ / 指針3 季節や自然を楽しむ / 指針4 大切に使う / 指針5 和の技を感じる

これらの5つの指針を達成するための工夫を参考にしながら、設計者の柔軟なアイデアで、指針をどのように設計に反映するか、考えてみてください。

## 指針1 まちに暮らす

～隣地の状況を踏まえて建物配置を計画する～

京都のまちでは、建物と庭がともに連担することで通風や採光を確保し、高密度居住が可能なまちがつくられてきました。

隣地の状況、町並みを踏まえて、建物配置や開口部の位置、軒下等のまちと緩やかにつながる仕掛けを計画することで、地域社会における共存の精神を継承することができます。

- 指針を達成するための工夫
- 1-1 隣との連担に配慮する
  - 1-2 開口部の位置などに配慮する
  - 1-3 まちと緩やかにつながる仕掛けをつくる

たとえば「1-1 隣との連担に配慮する」では…

隣接敷地の建物配置や庭の連続性に配慮

## 指針2 場所になじむ

～地域特性や歴史を踏まえて設計する～

都心から郊外まで、京都のまちは、様々な地域特性に彩られた多様な景観が魅力です。例えば、京町家が残る地域では、既存の京町家と調和させるなど、地域特性や歴史を踏まえて設計することで、場所になじむ住まいとすることができます。

- 指針を達成するための工夫
- 2-1 地域特性を踏まえたデザインにする
  - 2-2 町並みのスケール感や昔ながらの地割に配慮する
  - 2-3 設備機器も町並みに調和させる

たとえば「2-1 地域特性を踏まえたデザインにする」では…

周囲の町並みとの調和を意識

## 指針3 季節や自然を楽しむ

～季節や自然を楽しめるよう工夫する～

京町家では、奥庭や坪庭といった自然を感じることでできる空間を住まいに取り込むことや木・土壁などの自然素材を使うことで、都心においても潤いのある暮らしを実現しています。

また、季節の飾りや草花が飾れる場所を設けることにより、季節や伝統行事を楽しむことができます。

- 指針を達成するための工夫
- 3-1 風や光、自然が感じられる庭を設ける
  - 3-2 季節の飾りや草花が飾れる場所を設ける
  - 3-3 建物内の風通しや日射をうまくコントロールする(深い庇や格子、すだれを用いる等)

たとえば「3-1 風や光、自然が感じられる庭を設ける」「3-2 季節の飾りや草花が飾れる場所を設ける」では…

庭を楽しめる空間や、しつらいの空間を設ける

## 指針4 大切に使う

～大切に長く使い続けられるよう工夫する～

京町家には、「もの」を大切にする精神が息づいています。

住まいそのものから、建具や家具に至るまで、大切に長く使い続けられる工夫をすることで、愛着のある住まいを次世代にも引き継ぐことができます。

- 指針を達成するための工夫
- 4-1 メンテナンスをしやすくする
  - 4-2 木や土壁等の自然素材を使う
  - 4-3 経年変化を楽しめる工夫をする
  - 4-4 多様な使い方ができるようにする
  - 4-5 古建具や古材の活用も考える

たとえば「4-4 多様な使い方ができるようにする」では…

多用途に使えるよう、引き戸で仕切る

## 指針5 和の技を感じる

～伝統技術・技能をいかす～

伝統構法をはじめ、畳一つをとっても京町家には、長い歴史の中で培われた技術・技能が詰め込まれています。これらを現代の建物に取り入れることで、京都の文化を継承することができるだけでなく、より誇りの感じられる住まいとすることができます。

- 指針を達成するための工夫
- 5-1 外観に伝統技術・技能をいかす
  - 5-2 内部に伝統技術・技能をいかす
  - 5-3 伝統構法での新築も考えてみる

たとえば「5-2 内部に伝統技術・技能をいかす」では…

畳や土壁をいかす



# 新町家設計事例

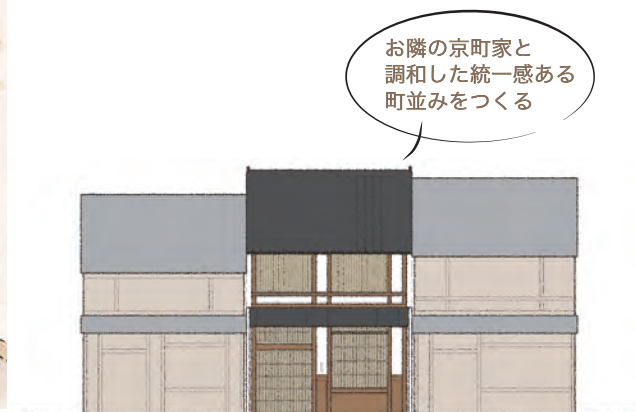
さまざまな立地やお住まいになる家族構成を想定して、新町家の設計事例をご紹介します。  
ご自身のお住まいを考える際や、お客様のご要望に答える際、是非、参考にしてください。

たとえば…

## 若者夫婦2人で、まちなかの土間のある町家に暮らす

町なかの短冊状敷地での、コンパクトな住まいの設計事例です。伝統的な町家の空間から、生活に必要な要素を抽出、再構成し、伝統を踏まえながらも、必要なものが近くにあるコンパクトな居住空間を目指しました。

また、京町家の伝統的な空間の一つである土間を、現代的に見直して取り入れています。土間部分は、リビングの延長や趣味の空間、ちょっとした接客空間等、様々な活用できます。



本編では、他にも、「通り景観に配慮して建物内に駐車スペースを取り入れたケース」「店舗を取り入れた3階建てのケース」「ゆとりある敷地のケース」「町家のつくりを取り入れた集合住宅のケース」などをご紹介します。

京都市都市計画局まち再生・創造推進室

〒604-8571

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地  
京都市役所 分庁舎2階

〈本事業は宿泊税を活用しています〉

令和2年3月発行

京都市印刷物：第313285号



京都市  
CITY OF KYOTO

京都市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

この印刷物が  
不要になれば  
「雑がみ」として  
古紙回収等へ！



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

